

平成30年度第4回豊田市議員報酬等及び特別職の給料に関する審議会会議録

●日 時 平成30年11月28日(水) 午後1時30分～午後3時00分

●場 所 市役所 南庁舎5階 51会議室

●出席者 ・出席委員9人

桑原 英明	(学識経験者 中京大学 教授) ※会長
田端 稔	(豊田商工会議所 副会頭) ※副会長
石川 尚人	(あいち豊田農業協同組合 代表理事専務)
井原 邦和	(市民公募)
小澤 仁和	(連合愛知豊田地域協議会 代表)
鳥居 忠雄	(豊田市ボランティア連絡協議会 監事)
西口 武彦	(豊田市区長会 理事)
福田 美和	(豊田市ファミリー・サービス・クラブ 会計)
山田 洋介	((一社)豊田青年会議所 理事長)

・事務局

大谷 哲也	(総務部長)
藤本 聡	(総務部副部長)
伊藤 勝介	(議会事務局長)
奥村 洋	(議会事務局副局長)
広瀬 誠	(議会事務局担当長)
藤野 晃浩	(議会事務局担当長)
佐藤 英之	(人事課長)
熊谷 明典	(人事課副課長)
武藤 克也	(人事課担当長)
原 一仁	(人事課主査)

● 傍聴人 0人

◎議事

1 前回審議会の会議録確認

(会 長) 前回審議会の会議録について、事前に事務局から届いていると思うが、内容の訂正や確認などあれば意見をいただきたい。

—— 委員より訂正なし ——

(会 長) 訂正なしということで会議録は公開させていただく。出席した委員氏名も公開となるので了解いただきたい。

2 資料説明及び質疑（議員報酬）

(会 長) 本日追加で配布されている資料等について、事務局より説明をお願いしたい。

(事務局)

(1) 市議会議員報酬の引上げ額

引上げ案を2つ提示した。また、参考として人口40～45万人の中核市における平均報酬月額も掲載した。

(案1)

人口が40～50万人の中核市における平均報酬月額との差を解消するものである。なお、平均を算出するに当たり、減額措置を適用している市については減額措置適用前の額を用いている。また、豊田市を除いた状態で計算している

それぞれ、議長は6,000円、副議長は4,000円、議員は5,000円の引上げとした。

(案2)

豊田市一般職の平成29年度、30年度の引上げ率を加算したものである。

議長・副議長・議員いずれも2,000円の引上げとした。

(参考情報)

人口40～45万人規模の中核市平均と比較すると、豊田市はそれを2万円以上上回っている

(2) 市議会議員報酬の引上げ時期

引上げ時期は、平成31年4月1日としたい。

(会 長) 質問、意見はあるか。

—— 委員より発言なし ——

3 市議会議員の議員報酬について

(会 長) 議員報酬の引上げ額について、発言いただきたい。

(委 員) 豊田市の名前やブランドから考えれば平均以上に高くてもよいと思うが、職員の昇給率に当てはめると2,000円程度になることを考えれば、まずは案1のとおり平均額までの引上げがよい。また、それ以降については次年度以降に検討してもらいたい。

(委 員) 子供が大学に行くとしたらこの給料でいけるのか。案1でよいと思うが、もっと高くてもよいのではないか。

(委 員) 一般職における2年分の昇給額を考慮したとしても、案1がよい。

(委 員) (人口類似中核市の) 平均値に近い値にするべく、案1がよい。

(委 員) 人口40～45万人の中核市平均と比べると、豊田市は上回っている。また、住民1人当たりの議員報酬額は中核市でトップである。市民感情からいっても、案1は難しい。現状維持かせいぜい案2であるとする。

(委 員) 人口類似中核市の平均値に届いておらず、また特別職は中核市の中で上位の報酬額である。せめて平均以上の額とすべきであるから、案1がよい。

(委員) いただいた資料から判断して、案1がよい。

(委員) 2～3万円程度の引上げを考えており、案1でも低すぎると思う。
他の委員が賛成という事であれば反対はしないが、報酬は高い方が
一生懸命仕事をしてくれるのではないか。

(会長) 案1以上に引き上げた方がよいという意見が2名、現状維持かせい
ぜい案2が妥当であるという意見が1名ありました。
本審議会の総意としては案1としたいがよろしいか。

—— 異議なし ——

(会長) 引上げ時期については、事務局案のとおり平成31年4月1日によ
いか。

—— 異議なし ——

4 資料説明及び質疑（政務活動費）

(会長) 本日追加で配布されている資料や前回審議会の宿題等について、事
務局より説明をお願いしたい。

(事務局)

(1) 議会費による視察等の実施状況

前回、53万円の政務活動費の中で海外も含め、十分な調査研究活動
ができるのかというご質問をいただいた。

議会費による視察等の、本市及び近隣中核市（岐阜市、豊橋市、岡
崎市）における実施状況を追加資料に示した。

○国内視察

岐阜市のみ特別委員会の視察が少ないが、その他の市の回数は同じ。
費用についても各市同額程度である。

○海外視察

ラグビーワールドカップの開催を控えているという背景もあるが、本市はH28、29年度と調査研究型の視察を実施している。

これ以前にも都市のグローバル化の調査研究型視察が実施されている。

姉妹都市訪問についても実施をしている。

岐阜市と豊橋市においては、調査研究型の海外視察を実施していない。

岡崎市においては、平成22年度以降海外視察を凍結している。

(2) 政務活動費内訳の県内同規模市との比較

本市における研修費・調査研究費の占める割合は8割強。

春日井市の政務活動費は年間36万円、岡崎市の政務活動費は年間60万円であり、その内、7割程度を研修費・調査研究費に使用している。

豊橋市の政務活動費は年間108万円であり、その内、4割程度を研修費・調査研究費に使用している。また、広報広聴費に3割程度を使用している。

本市は用途が厳格であるため、研修費・調査研究費にその多くを支出していると考えている。

(3) 政務活動費に対する豊田市議会議員の考え

議長及び会派に対して聞き取りを実施した。

金額について異論はなかった。ただ、用途については今後検討の必要があるという意見であった。

(会 長) 質問、意見はあるか。

(委 員) 政務活動費での研修は海外を含めて実施しているのか。

(事務局) 海外へ行く会派もある。

会派に対して政務活動費を支給している。自民クラブは人数も多いため、毎年、一部の議員が行っている。市民フォーラムは人数が少ないが、行く年もある。

(委員) 追加資料でいただいた特別委員会等による視察は、政務活動費とは別の費用ということでよいか。

(事務局) 政務活動費ではなく、議会費で予算を計上して実施している。

(委員) 岡崎市が海外視察を凍結した背景は何か。

(事務局) 詳細は把握していないが、リーマンショックにより財政状況が厳しくなった時期であるため、予算の関係上、凍結したと推測している。豊田市においても、平成22～25年度については自粛していた。

(委員) ある市議会議員が、現在の使途基準は非常に適正であると考えていると言っていた。また、厳格に運用した方が、政務活動費を計上する際に、間違えることなく計上できる。金額についても、現状で活動できているので増額は希望していない。

満足か不満足かという質問に対しては、不満足ではないと言っていた。

海外研修については、会派が小さいとなかなか行けないので、4年程度プールできるようにしてもらえば色々工夫ができる。ただ、忙しくて視察の計画を立てるのが難しいと言っていた。

政務活動費を増やしても、行くことができないのではないかという印象を受けた。

国内にも先進地があり視察・勉強も十分できる。また、国内の方が視察後に問合せが可能であるなど、情報も得やすく、後々にも生かしやすい、とも言っていた。

(委員) 事務局がどういった目的・問題意識を持つか。それに基づいて事務局がある程度視察の内容を決め、先方との調整も代行するというやり方もある。

海外には進んだ事例があり、勉強になることも多い。

(委員) 常任委員会や特別委員会など特定の目的を持った場を活用して、海外視察などを企画していただいております、議会審議や議員提案にもつながっていると思う。

また、会派ごとでも政務活動費により視察を実施し、会派ごとの独自性も出していただいていると思う。

コストを削減しながら、アウトプットを考えられており、多くの企業を抱える豊田市ならではだと見ている。

現状で頑張っていたいただくのが、豊田市のやり方ではないかと思う。

(委員) 53万円の内の80%程度が、調査研究費で消えてしまうとすると、残りの10万円程で何ができるのかと違ってしまう。

儉約するのもそうかと思うが、金額にして考えると53万円では少ない。妥当な数字はどこなのかは見えないが、正直少ないと思う。

人数の多い会派は執行率は100%になっているが、これは、どこかを我慢したり、自己負担をしたりしたのかと推測すると、53万円は少ないのではないか。

視察にしても「百聞は一見にしかず」という言葉があるように、自分たちの会派でもう少し自由に行ける余裕があっても良いのではと思っている。

(委員) ある議員に聞いたところによれば、会報の作成は7～8万円かかり、足りない部分は持ち出しするしかないとのことであった。

政務活動費は全部使えというのではなく、必要な分を使うというものであるから、もう少し上げた方が良いのではないかと思う。

(委員) 政務活動費というこの言葉に、反応してしまう。

私からすれば法律に定めのあるもので堂々とすればよいと思うが、議員は市民の目を意識している印象を受けた。目的と実態がかみ合っていないと思う。

53万円が安いか高いかは判断できないが、政務活動費の趣旨に沿ってしっかり活動すればよいのではないか。

(委員) 本日の資料によれば、豊田市の海外視察は他市に比べて多い。政務活動費は53万円であるが、しっかり活動している。

53万円が妥当であり、上げる必要はないのではないか。

(委員) 議員が何をやりたいか。それを各会派でしっかり話し合い、目的や足りない部分を提示してもらった上で、どれだけ上げる必要があるのかを議論すべき。

必要な視察等については、議会事務局と話し合い、特別活動費のような別の予算で対応すべき。

政務活動費については上げなくてよいのではないかと思う。

(委員) 平成25年に政務活動費を53万円に上げた理由は何か。

(事務局) 新たな使途基準が加わり、それを踏まえて政務活動費を上げた。

(委員) 平成25年から5、6年が経過しており、また消費税も上がるので、少しでも上げるべきである。

(委員) 議長も含めて53万円ということでよいか。

(事務局) 議長も一議員である。議長も会派離脱はしておらず、同額で適当であると考えている。

(委員) 全ての議員が公平な条件の下、活動を行った方が良いと考えている。豊田市がこれだけ広域になるなかで、山間部の議員が立候補しづらい状況になってしまうというのでは、よい政治にならないと思う。できる限り公平にするために、ガソリン代は幅を広げた方がよいと考える。53万円が妥当かどうかは判断ができない。

(委員) 過去の議事録を見ると、平成25年に政務活動費が53万円に上がったとしても、議員の研修や視察の回数などは増えていないとのことであったが、今でも変わらないか。

(事務局) 平成25年の主な変更点は、使途に要望活動、海外視察が加わったこと及び広報広聴費が75,000円から106,000円に増額となったこと。

視察等に使用できる金額は増えているので、回数が変わったかは資料を持ち合わせていないが、仮に回数に変化が無くても、中身が濃いものになったなどの効果はあったと思う。

(委員) 53万円の中で限度額が決まっているものがあるということか。

(事務局) 広報広聴費のみ限度額が決まっている。

(委員) 過去に福祉の先進国に議員が行った話を聞いたことがあり、非常に勉強になったと言っていた。その後、老人ホームのような施設も充実してきたように思う。これから IT や IoT などが出てくる。そういったものも勉強してもらったと豊田市も良くなるのではないかと。

海外の良い事例も事務局が調べてきて、議員に提案して議員が判断し、議会費や政務活動費を使って視察をすればよいと思う。

そうしたことをしようとすると、53万円ではいかにも少ない。

(委員) 事務局のサポート体制は、現状どうなっているのか。

(事務局) 政務調査担当が議会事務局にあり、議員に対して支援できる体制は整っている。1度の視察について3回、4回と打合せすることもある。

各会派や個人のテーマに沿った相談に対応しており、実際に議員からの相談によって、情報提供をしたり、視察先と連絡やアポイントメントをとることもある。視察先の提案もしている。

(委員) 政務活動費による視察が可能な時期はいつ頃か。

(事務局) 議会の合間に行く必要があり、委員会ごとの視察や研修、地元行事などもあるため、8月や10月が多い。

(委員) 日程的にも年に2回行くのがやっとということか。

(事務局) 議員は多忙にしており、また会派によっては、東京へ研修に行くこともある。視察の日程を確保するのは難しいのが実情である。

(委員) 政務調査担当者は兼務を含めて何名いるのか。

(事務局) 正規職員が5名、特別任用職員が2名の合計7名体制で対応している。

(委員) 政治活動をするために土地を売ったという話を聞いたことがある。そういったことはあってはならないと思う。ある程度はみてあげる必要がある。

(委員) 今の金額では何ができるのかと思う。

豊田市は先進都市であり、参考になる市は国内にはあまりないと思う。

海外へも目を向けてもらいたい。

豊田市が(財政的に)恵まれている今のうちに政務活動費を上げて、もっと活動していただいた方が市民にとってもよいのではないか。

(会長) その他、意見や質問はないか。

—— 委員発言なし ——

(会長) 政務活動費を引き上げる、引き下げる、据置きの三択で、挙手による多数決をとりたいと思うがよろしいか。

—— 異議なし ——

(会長) 政務活動費を引き上げるのが妥当であるというお考えの方は挙手をお願いします。

(5名)

(会長) 引下げが妥当であるというお考えの方は挙手をお願いします。

(なし)

(会長) 据置きが妥当であるというお考えの方は挙手をお願いします。

(3名)

(会長) 政務活動費を引き上げるという案を、本審議会の意見とする。

(事務局) 審議会の意見について1点確認したい。

先に説明したとおり、本市は税収が減少する見込みであり、財政状況が厳しくなると想定される。それを踏まえた上で、議員の活動に期待を込めて政務活動費を引き上げるということによいか。

(委員) 税収が減ることを前提として、上げるということは言っていない。

制度上は減少するかもしれないが、増加する可能性もある。

議員がもっと勉強し活動すれば、市民生活がより良くなるかもしれ

ないし、税収が上がる可能性もある。

もっと勉強して、もっとリターンを大きくしてもらいたいという思いで言っている。

(会 長) 答申の文言については、改めて精査したい。

また、事務局については具体的な引上げ額の案を次回の審議会です
していただきたい。

本日の審議は以上とする。

【審議終了】